



春を告げる粧の花

飯田町二丁目町会 大塚千代子

めまぐるしい寒暖の冬もようやく終り、三月の声を聞く、ほっとした季節がやって来ます。

我家の春は味噌作りで始まります。十年ほど前から味噌作りのグループに加えてもらい三日間の作業で一年分、二十キロを持ち帰ることが出来ます。まだ寒さの残る早朝から作業所を借り、二百キロ余りを八人で行うのは大変です。この三日間は、店の仕事を夫に任せて汗を流します。この味噌作りの中で一番のポイント



平成28年3月1日現在

総世帯数	1,470世帯
総人口	2,728人
男	1,288人
女	1,440人

す。翌朝打ち返し、夕方もう一度混ぜます。もう一晩温度管理し熟成させ、三日目の朝ようやく完成します。が、発酵食品の微妙な変化で満足な出来や、少しの加減でもう一步の年もあります。保温機から取り出すまでは期待と不安がいっぱいです。甘い香りが漂い真っ白な粧の花が咲く(米に粧菌がびっしり付いている様子)とほっとすると共に菌類や自然の不思議を感じる時です。この貴重な粧と蒸した大豆を漬して塩を混ぜ合わせて味噌の完成です。一年間の熟成を待つてようやく食べることが出来ます。毎朝沢山の野菜を入れた味噌汁は我家の健康の源であると自負しています。口数の少ない夫ですが、食べる時は「おいしい!」とお替わりの時もあるほどです。

そしてこの時期、雛祭りの為にこの手作り粧で甘い甘い甘酒を作るのです。以前の様に部屋いっぱい七段飾りを出すことはなく、多くは箱の中に入ったままで、素

みなさんは砂防ダムというものをご存知でしょうか?山中の渓流に行くとき見える高さの低い小さなコンクリートの堰堤のことです。目的は災害を防ぎ、人命や財産を守る名目で造られ続けています。ダムにはそういった機能がある反面、環境破壊をはじめとした沢山の問題を抱えており、自然や生態系だけでなく、人や財政にも大きな影響が出ています。その数は9万基を超え全国の川に造られていきます。今や砂防ダムの無い溪流を探すことの方が難しくなっています。

**既設砂防ダムのスリット化改修の推進**

常盤町町会 田口康夫

そして明治時代から現在まで約120年、膨大な時間とお金を投入し続けてきても、その平均整備率(達成率)は



既設の乳川白沢砂防ダムスリット化改修 (2015年現在)

22%くらいです。この数字は何を表しているのでしょうか?コンクリートの寿命は50~100年と言われていますが、整備率を倍の44%に持って行くにはあと100年くらいかかります。100年前のものは老朽化で寿命を迎え、その壊れる数を引けば相変わらず22%くらいの数字が残ってしまいます。私たちはこの数字が示す現実で防災を考えるしかありません。土砂災害は、いくら砂防ダムを造っても完全に防ぐことができません。

ん。ダムがあれば安全だと過信することは、被害が拡大することに繋がります。また砂防ダムは土砂流出を制御する働きがあり、川の河床高の維持、海岸線の維持など、必要な土砂が流れてこないことで様々な弊害も起き、膨大な対策費がかかっています。つまり上流にて人為的に下流にてその尻拭いをするという悪循環が起きています。これらの問題を解決するために私たちは、既に造られたダムに開口部を造る改修の提案をしています。これは流れの連続性を確保し、土砂に埋まった景観を復活させ、ダムの持つ土砂制御率を高め、河床低下や海岸浸食を緩和させる、新設ダムよりはるかに安くできる、など一石何鳥もの効果があります。

春の風物詩

福寿草



花言葉「永久の幸福を招く」

# 春待ち落語寄席

2月28日第一地区公民館で、公民館、福祉ひろば、人権啓発委員会共催による落語会が開かれた。春を思わせる暖かい日和に恵まれ、100人程が参集した。

和泉家志ん治師匠による落語と、弟子の和泉家びーすさんによるマジックが披露された。師匠は本題に入る前に、笑うことが健康にいかにか大切か、また相手を思いやる気持ちと話し方、態度が重要かを



和泉家志ん治師匠



和泉家びーすさん

『久しぶりに大声で笑ったネ』『ズク出して来て良かった』『楽しかったネ』会場を出る人々は皆笑顔であった。江戸時代の優しく、真面目で、誠実に生きていく人達。今の世にも他者の幸せを願う人達が増える事を願う主催者の思いが伝わる落語会であった。

笑いの中にも語っていた。落語は江戸時代の話で、貧しいが正直者の町人と浪人そして江戸詰めのお武士の3人のやりとりで、お互い、夕日で金のやり取りをしてはならないし受けてはダメという断で、最後はお互いに納得する方向に話がつき、皆が幸せになり、めでたし、めでたしという話だった。笑いの中にも心に温かさが残る語りで、皆笑いながらもうなずいて聞いている。和泉家びーすさんのマジックは、手品のネタを明かしながらも、軽妙な語りど表情に大爆笑がおこっていた。

# たのしい男の料理教室

二月五日、第一回「男の料理教室」が開かれた。六十、八十代の十五人が参加し、講師の中国料理調理師会の元会長の斉藤勝幸先生の指導を受けた。

料理の内容は◎春巻◎焼豚炒飯◎酢豚◎酸辣湯の四品で、おいしくできるか不安ながら作った。

日頃、家庭で料理している人から初めて包丁を持つ人までいろいろで、グループ毎に助け合って三時間かけてようやく料理を作り上げた。



お互いに味を確かめ合って調味料を加減したり、具材を入れ忘れて追加したりして何とか料理ができた。どんな料理でも自分の手で作ったものはおいしいものである。会食時は皆満足気で、余った料理は家へのおみやげにした。

# ふれあい健康教室 園児と交流『ひなまつり』

2月26日のふれあい健康教室は、さくら保育園その組の24人の園児とひなまつりを楽しんだ。

園児による『手のひらを太陽に』と『みんな友だち』の合唱から始まり、会場が50人の参加者の笑顔で溢れたのは、園児を先生に折り紙で男雛と女雛を折り始めた時。「そうじゃないよ。こうだよ」という可愛い先生の声があちこちから聞こ



茶話会では当番町会の宮村町1丁目・2丁目の皆さん手作りのちらし寿司の美味しさに、五人囃子ならぬ参加者の舌鼓があちこちで響いていた。

# すすき川

先頃新聞の「残したい方言」の欄に「カナンナ」という言葉が載っていた。《ごめんなさい》《堪忍してね》と注が付いていた。私が子供の頃祖母が使っていたのを思い出した。外で友達といさかいがあつたりして祖母に言い付けると「カナンニしてやりな」「カナンしましょ」とよく諭されたものだ。その時は深く考えもせず「ガマンするんだ」くらいに思っていた。私の祖母だから明治20年代の生まれで、生まれた安曇野から一歩も外に出ていなかった人だから安曇地方の方言だと思つた。

著者によると「堪忍してね」と互いに言い合うことで解決される事柄が多いという。認め合うという心が込められている言葉のようだ。自己主張が持てはやされている昨今には少しそぐわない言葉かもしれないが、心に留めて欲しい言葉だと思つた。男性語の「ワリーナ」「カンペナー」も同意語という。

「カナンニしてな」は私もここ数十年使っていない。たぶん親になっている私の子供達も、意味も使い方も知らないとと思う。私の内での「残したい方言」になった。(清水)